

令和 5 年 10 月 30 日

「令和 4 年度自己点検・評価に係る学校関係者評価委員会」

1. 学校法人国際総合学園 国際情報工科自動車大学校における「令和 4 年度自己点検・評価」は、令和 5 年 7 月 25 日に前年度の点検評価結果に係る改善内容も視野に入れ、自己点検・評価を実施し、令和 5 年 10 月 27 日に学校評価委員会 5 名（欠席 2 名）に対し学内職員 3 名で報告を行い、本書のとおり報告書をまとめた。
本校の自己点検・評価については一般社団法人全国専門学校教育研究会の策定した、自己点検・評価報告書「作成ハンドブック・作成マニュアル」を基本に進めた。
2. 全国専門学校教育研究会版「作成マニュアル」の自己点検・評価基準をベースに、自己点検・評価を行い、その結果を根拠資料と共に提出。その過程において、不備な点等の改善について、今後の方向性を協議するとともに、次年度以降の取り組み課題とした。
3. 今後の課題として、令和 4 年度学校関係者評価を受け一定の方向性を持って、学校評価を進めて行くことにより、本校における質の保証・向上のなお一層の取組充実が図れるよう努めていきたい。

学校関係者評価報告書（「学校関係者評価委員会」報告）

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

自己点検・評価 3.6 学校関係者評価 3.6

1) 教育理念（建学の精神）

（教育理念）

「将来の職業に関する高い専門能力を追求しながら単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造性に満ちた人材育成の場」であることを教育の基本理念とし、常に変化していく時代に即した工学系専門教育機関として、地域社会の振興はもとより、国際社会の発展に寄与するものである。

2) 教育目的・教育目標

教育理念（見学の精神）・目的・目標は他者が確認できる状況を構築しており、1 から 3 は達成している。

改善点としては、項目 5 学外教育計画の公表に関してできているのが職業実践専門課程認定学科のみなので、全学科の教育計画を作成し公表するよう推進する。

■評価委員からの意見・質問等

「1 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標」についての意見・質問等はなかった。

2 教育の内容

自己点検・評価 3.3 学校関係者評価 3.4

1) カリキュラム作成等

昨年度に引き続き、カリキュラム編成、シラバス作成は滞りなく計画的に実施されているため継続して取り組む。

6項の「コマシラバス」に関して必要な学科については作成を進め対応していくが基本、学生の能力に合わせた学習進度を優先としたい意向もある為、週シラバスを基本とした学習計画で進捗管理を進める。

2) 学習プロセスの改善

毎年行っている「学生アンケート」を計画的に実施して指導・改善していくことはもちろんのこと、評価の結果を授業改善に活かすという観点から、管理職によるフィードバックの実施を今後も継続し、教育の質向上に努める。今後はアンケート結果に基づく研修の実施等も検討していく。

3) 業界ニーズに対応した付加的教育

企業・行政との連携も大切であるが、地域と連携を図ることが今後重要になる。内容を精査し地域と連携した授業展開を構築するとともに、高等教育機関との連携も進めていく。

現在は、グループ校との連携として合同授業を検討している。

4) 教職員の資質の維持や向上

教員の研修については計画的に実施され、各業界の新技术研修会にも参加している。継続して研修を実施し質の向上に努める。

■評価委員からの意見・質問等

- ・16項のインターンシップについて一部の学科でのみ実施の状況について質問があった。自動車の様に養成要件のある学科の学生はインターンシップに参加する時間が取れないが、情報やゲームなどの学生はインターンシップに積極的に参加しているため一部の学科となっていると回答。
- ・7項について少人数の実践的な教育であるため、個々人の理解度などを勘案して授業を進めている実情を考慮すると「1コマ毎のシラバス」を作成することには無理があり、評点は2かもしれないが「やや不適切」ということではないと理解しているとの意見を頂いた。今後の自己点検での評定について頂いた意見を考慮し決定していく。
- ・21項について高等教育機関との連携として、大学（日大工学部や福島大学理工など）が役に立つなら、積極的に活用してくださいとの意見を頂いた。今後の連携について学内で検討していく。

3 教育の実施体制

自己点検・評価 3.8 学校関係者評価 3.8

1) 教育環境の整備・活用

ほぼ適正に整備されている。項目3では校舎内に図書室が設置されていないため、また、前回委員の方よりの助言もあり、項目4では各教室の一角に設置を進めている。項目5については、教室数の問題から、専用場所は設けていない。昨年の委員会でWebでも“場所”になるのではとの意見を頂き Microsoft teams を使用し就職情報についての情報が閲覧できるよう整備した。

■評価委員からの意見・質問等

- ・5 項について就職情報以外に学生からの相談はどの様になっているかとの質問を頂き、学生の相談、面接指導等にも活用していると回答。
- ・7 項についてエコ活動について SDG s を明確に示しカリキュラムに導入していく必要があるとの意見を頂き、現在実施している SDG s についてのカリキュラム継続と全学科での SDG s 関連のカリキュラム導入を行っていく。

4 教育目標の達成度と教育効果

自己点検・評価 3.8 学校関係者評価 3.8

1) 教育目標の達成に係る取組と評価

目標設定・共有・記録・今日票については適正に行われている。

20 及び 21 の項目については過年度からの課題。

今後、元担任より SNS による確認及び後追い企業訪問を中心とした卒業生状況把握を推進。

また、企業側も人手不足のため、卒業生で早期離職者など就業していない卒業生へのアプローチができると良いとの意見から同窓会との連携を検討中。

■評価委員からの意見・質問等

- ・21 項について就職状況の公表は個人情報保護にも留意して慎重に取り扱ってくださいとの意見を頂いた。氏名・写真等の個人情報の取り扱いについては、学生個人に了承を得てから使用しているため今後も継続していく。

5 学生支援

自己点検・評価 3.3 学校関係者評価 3.3

1) 保護者会及び企業の会設置について

入試から入学・在籍まで基本的な学生支援は構築できている。

なお、18～22 の項目に関しては同窓会と連携を図りながら支援活動を推進させ、卒業後にも支援継続出来る環境構築を検討。

■評価委員からの意見等

- ・27 項について学校で行っている卒業後の支援継続や学内での説明会開催について企業側は知らないため、外部に周知することが必要との意見を頂いた。今後、周知方法含め検討し取り組んでいく。

6 社会的活動

自己点検・評価 2.8 学校関係者評価 2.8

項目 2,3 については今後さらに拡充、積極的な参加を推進。

項目 5 については過年度に意見があり一部学科から導入検討中。

令和 4 年より、全学科で SDG s の取組導入。

■評価委員からの意見・質問等

- ・5 項について社会的な活動は重要ですが、学ぶべき専門的な技術と同列に扱えないため「単位化はすべきでない」と思っているとの意見を頂いた。単位化は難しいと考えているため、単位化ではなく社会的活動の実施に重点を置き推進していく。

7 管理運営

自己点検・評価 4.0 学校関係者評価 4.0

基本的な管理・運営体制は確立されている。

■評価委員からの意見・質問等

- ・「7 管理運営」についての意見・質問等はなかった。

8 財務

自己点検・評価 4.0 学校関係者評価 4.0

予算計画、執行、会計において公正に運営されている。

■評価委員からの意見・質問等

- ・「8 財務」についての意見・質問等はなかった。

9 改革・改善

自己点検・評価 3.8 学校関係者評価 3.8

自己点検・評価は平成 25 年度より継続しており、報告書の作成と共に、毎年適正に HP で公表している。

■評価委員からの意見・質問等

- ・「9 改革・改善」についての意見・質問等はなかった。

その他

■評価委員からの意見・質問等

- ・委員会に参加する上でも学園等に足を運び学生の様子、校舎の状況を見学したいとの意見を頂いた。2月に実施予定の卒業修了作品展、次年度の学園祭などを案内し学校の状況を確認頂く機会を設けていく。
- ・管理運営・財務管理について健全に管理・運営がなされているとの意見を頂いた。今後も継続していく。
- ・全体を通じて適切に自己評価できているとの意見を頂いた。次回の自己点検についても適切に評価できるよう努めていく。

以上

◆学校関係者評価委員

- ・ I G D A 日本 副理事長
- ・ 日本建築家協会東北支部
- ・ 福島県消防設備協会
- ・ 有限会社 山ノ井商事 代表取締役
- ・ 株式会社アルサ 執行役員 事業本部長

◆学校側報告者

- ・ 副校長 阿部 一則
- ・ 事務局長 星 明彦
- ・ 教務部長 鈴木 友二